

豊潤の里 だより

処分場により生活が壊れかけているのに…

～ 6/29 本郷処分場報告集会に参加して ～

7月11日TSS夕方の番組「TSSライク!」について報告します。岡田和樹さん(本郷処分場原告団代表)から11日午後、本郷処分場について放送があるとのメールが入りました。すぐさま木谷地区の関係者50名ほどにメールで知らせ、私も番組を観ました。異様な泡が田んぼ脇の用水路を流れ、異臭を放っている映像を伝えていました。

岡田さんをはじめ住民の方々が、「米も作れない」「生活できない」「何とかしてほしい」と、すぐ目の前で起こっている異常な現象を県職員に懸命に訴えていました。が、県職員は「自然現象かもしれない」「調べてみないとわからない」と、つれない対応。専門家の大学教授からも、困っている側、助けを求めている側を擁護するコメントはありませんでした。処分場により住民の生活が壊れかけているのに、何もなす術がない現実に愕然とする^{すべ}とともに憤りを覚えました。(※TSS見逃し配信で視聴可能)

次に、6月29日(土)14時、三原市南方コミュニティセンターで行われた「本郷処分場状況報告集会」について報告します。内容は4つ。1つは広島県相手に起こしている行政訴訟についてです。昨年7月設置許可取り消しの判決後、県は控訴し今なお裁判は続いています。この間毎月約3,000トンの廃棄物の埋め立ては行われています。2つ目は三原市で制定された「水源保護条例」についてで、制定はされたけど汚染から水源を守るには程遠いものです。3つ目は、最近分かったことですが、本郷処分場に放射性廃棄物が搬入されたことです。最後に原告の一人竹ノ内さんの訴えの一部を紹介します。



集落に未来はないです。広島県は形ばかり、茶番のような水質検査で、水の汚染は収まったと言っていますが、今でも大雨などで川の水の量や勢いが増した時には、流れる水は泡立ちます。また調整池から川へ放流する水の量が昼間は少ないのに、夜暗くなってから増量されているのも目にします。夜中採水して検査すると、基準値を超える高い数値が出ることもあります。県が調査に来たときは、自然の水が多く流れるようにしています。他には、業者の人に後をつけられ睨みつけられたり、農道に車を止めているだけで警察に通報されたり、写真を取られたり、取り囲まれて暴言を言われた人もいます。毎日何台もの大型トラックに積み込まれた得体のしれない産廃ゴミが山に埋め込まれているのを見るのは胸が押しつぶされます。

木谷自治協議会としても、日常を取り戻す方法を、共に考え行動していきたいと思えます。

第36回東広島市民スポーツ大会に出場

6月2日、市制施行50周年を記念し、第36回東広島市民スポーツ大会陸上の部が開催され、9種目について32校区のチームが得点を競いました（うち1校区チームは競技に不参加）。木谷チームの合計得点は94点で順位は16位でした（1位チームの得点は126点）。



開会式

これから始まる競技のことを考え高まる緊張感。さあ頑張るぞ。



4×100mリレー

最初の種目。一生懸命走りました。来年こそ頑張ろう。



大玉ころがし

玉入れは最高得点。大玉ころがしは、大玉ほんろうに翻弄されました。



ストラックアウト

昨年に続き、今年も実力を発揮できず。やっぱり練習せんといかんなあ。



年代別リレー（女子）

女子リレーのメンバーは実力者揃い。しかしライバルチームも速かった。



年代別リレー（男子）

実力を発揮して堂々の2位。ガッツポーズも出ました。

誰でも気軽に参加 木谷地域運動会



5月26日、木谷小の運動会終了後の午後から木谷地域運動会が開催されました。運動会の緊張から解放された児童とその保護者も加わり、三地区対抗で楽しみました。

地域運動会は、勝敗にこだわらずできるだけ多くの方が参加して楽しめることを目指しており、玉入れや綱引きなど全員が参加できる種目を多く採り入れています。

この運動会は、地域の方が木谷小学校や子どもたちを知る数少ない機会であり、参加者同士の交流の場としても、もっと盛り上げていきたい行事です。

地域も応援 校外学習でホボロ島へ



7月3日、木谷小5年生15名が楽しみにしていたホボロ島現地学習の日が来ました。増田典生さんと山平忍さんの船に乗せてもらい、まず鼻線島に渡って硬い岩石や砂浜の砂粒の様子を観察しました。

次に、長い年月にわたって熱水にさらされ、柔らかくなった岩でできたホボロ島に渡りました。ナナツバコツブムシが島の海面より下の部分に穴を開け住処すみかにしている

様子を観察。また島周辺に住む色々な生き物を採取し、講師の古本敦子さんから詳しい説明を聞きました。この日はNHKの取材が入り、翌日の地域ニュースで放送されました。

地域センター 主催講座 「普段使いの竹かご作り」



7月5日・12日・19日の3日間で、日常使う竹かごを2種類つくる講座が開かれ9名が参加しました。講師は光保智恵子さん。つくったのは“六つ目編み波縁かご”（作品写真・左）と“六つ目編み共縁かご”（作品写真・中と右）。

参加者のひとり「編むのが難しかったが、先生が丁寧に教えてくださり、完成できてよかった」との感想。講師の光保さんは「基本となる“六つ目編み”に苦心した人もいましたが、

全員2つの籠かごを完成させることができよかったです」。自然素材の竹かごが暮らしに彩いろどりを添えてくれることでしょう。



部会活動紹介

環境衛生部会



5/24 木谷郷川でホタル観賞会

夏が近づく木谷郷川で、ホタルを見ながら散歩する催しが開かれました。スタッフ10名を含む38名が参加し、吉田直代さんからホタルの生態の説明を聞いて出発。暗闇に点滅する神秘的な光に魅了されました。

<安芸津保全会下之谷集落・木谷地区公衆衛生推進委員会>



6/9 きれいなまちづくりキャンペーン

あいにくの雨模様の中、道路脇などに落ちているゴミを拾いながら、18名が木谷小学校に集まりました。成果は燃えるゴミ3袋、燃えないゴミ2袋、その他1袋。集めた分だけ地域がきれいになりました。

<東広島市・木谷地区公衆衛生推進委員会>

福祉生活部会



5/20 プランターの土の入れ替え

木谷小では児童ひとりが一鉢を担当し、マリーゴールドやサルビアなどを育てています。その苗がよく育つよう、土に肥料を混ぜてプランターに入れました。

<木谷地区社協 蛟龍>



6/27 園児とカレークッキング

木谷保育所で3歳から5歳の園児9名と一緒に具材の玉ネギ、ニンジン、ジャガイモの皮をむき刻みました。それを使って調理員さんにカレーライスをつくってもらい、みんなで美味しくいただきました。 <木谷地区社協 蛟龍>

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口	男	女
令和6年(2024)6月末現在	676	1406	684	722
令和5年(2023)6月末との比較	-13	-34	-23	-11